



## 新型コロナウイルスのクラスター発生、増加と多様化

～第35回新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボードで報告～

◆第35回新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボードが5月19日に開催され、福祉施設におけるクラスターの発生数が再び増加していることとクラスターの発生場所が多様化していることが報告されました。

当日の会議では、家庭内での感染を除く5人以上のクラスターについて、押谷仁委員から今月16日までの状況の解析が示されました。それによると、1月には961件で過去最多となり、翌月には388件に減りましたが、3月からは428件と再び増加に転じ、4月は1月に迫る849件まで増加、今月も16日までの集計で477件と、900件を上回る勢いとなっています。発生場所別に内訳を見ると、1月は高齢者福祉施設352件、障害者福祉施設30件、児童福祉施設37件で福祉施設合計では419件、全体の43.6%を占めました。その後2月は169件、3月は127件と減少しましたが4月に255件、5月は16日までの140件と、増加傾向に転じています。が、割合としては全体の30%程度で推移しています(参考資料の図表1参照)。これは職場や飲食店、その他把握困難な発生場所の割合が高くなったためです。このように、発生場所が多様化したり特定しにくくなっている原因としては、より感染能力が高いと言われる変異種ウイルスの拡大による影響が大きいと考えられます。高齢者福祉施設についてはワクチン接種も進んできているかと思いますが、障害福祉施設や児童福祉施設の利用者等は優先接種の対象となっておりません。ワクチン接種が行き渡るまで、今までに増して飛沫感染等の防止策の継続をお願いします。

なお、「全国のクラスター発生件数が7,422件となり福祉施設の発生も2,000件を超えた」と厚生労働省が同じ19日に発表したとの報道がありました。その発表資料自体は確認できませんでしたが、クラスターの定義として4人以下(恐らく2人以上)の規模の集団感染を含めて「クラスター等」としているものと思われる、そちらの定義による集計ではないかと考えられます。(事務局)

## 悩みはテレビとゲーム？

～21世紀出生児縦断調査の結果公表～

◆厚生労働省は5月19日、第10回「21世紀出生児縦断調査(2010年出生児)」の結果を発表しました。同調査は、2001年出生児と2010年出生児を比較しながら、少子化対策などの施策における基礎資料を得ることを目的として実施されています。調査時点における2010年出生児の年齢は10歳(小学4年生)です。

子どもの生活状況についてみると、小学4年生に携帯電話(スマホ含む)を持たせている割合は32.8%で、2001年出生児の14.4%に比べて18.4ポイント増加、持たせた時期については「小学1年生から」が31.6%で最多となっています。

登校日にコンピューターゲームをする小学4年生の割合は74.8%で、2001年出生児の65.2%から9.6ポイント上昇しています。ゲームをする時間については、「1時間未満」が48.1%(第7回(小学1年生)71.2%)、「1～2時間未満」が38.7%(同24.1%)、「2～3時間未満」が9.8%(同3.7%)、「3時間以上」が3.5%(同1.0%)と、学年が上がるにつれて「1時間未満」の割合が減少し、ゲーム時間が長くなる傾向がみられます。

これらをうけてか、子どもの日常生活で気になることや悩みの内容(複数回答)をみると、「テレビを見たりゲームをする時間が長い」が58.0%と最も高く、次いで「身体を動かして遊ぶことが少ない」が35.1%となっており、2001年出生児と比較すると、「テレビを見たりゲームをする時間が長い」が23.6ポイント、「身体を動かして遊ぶことが少ない」が12.0ポイント高くなっています。調査の時期が令和2年5月だったことでコロナの影響が有るかとは思いますが、「友だちと遊ばない・遊べない」も1.5ポイントとわずかですが高くなっていることも気になります。(事務局)

## 長期的な温暖化に歯止め効かず

～気温の平年値見直しでまた上昇～

◆5月も下旬となり、熱中症や集中豪雨が気になる時期となりましたが、その時々々の気象(気温・降水量・日照時間等)や天候などを評価する基準である「平年値」が、5月19日に見直されました。

気象庁では、西暦年の1の位が1の年から続く30年間の平均値をもって平年値とし、10年ごとに更新しています。このため、従来の1981年～2010年の平均値から1991年～2020年の平均値に置き換わりましたが、従来の平年値と比べて年間の平均気温は、東日本で0.4℃、北日本と西日本で0.3℃、沖縄・奄美で0.2℃、また地点別でみると、宇都宮市と水戸市で0.5℃、東京都心、名古屋市、仙台市、高松市、佐賀市などで0.4℃、それぞれ上昇しています。

参考資料の図表2の左上は東京の毎日の最高気温について、従来の新たな平年値を比較したものです。日々の平年値が一律に上がるわけではなく、3月下旬、5月、6月下旬から7月上旬が特に上昇しているのが分かります。これらの時期はまだ暑さに身体が慣れていませんので、熱中症の対策を早めに検討する必要があります。

しかもこの平年値ですら1991年からの30年の平均値です。1990年までが大幅な増減がなく推移していたのに対して、「2000年まで」、「2010年まで」、「2020年まで」のそれぞれの10年の真夏日、猛暑日、熱帯夜の日数はどれも増加の一途にあります(参考資料の図表2の右上と下段参照)。従って今後も平年値を超える数値で推移することが危惧されます。

今回は気温について書きましたが、降水量等も見直されており、水害の恐れなどの「環境の変化」に対しても対応策を図ることが求められます。(事務局)

◆本年度、事務局主催の「社会福祉法人会計入門講座」は、オンライン配信のみでの開催を予定しております。配信日程等の詳細が決定しましたら改めて会員メール等でお知らせ致します。どうぞよろしくお願い致します。

◆ FAX NEWS (PowerPointにて制作) は下記URL総福研ホームページからダウンロードしていただけます。どうぞご利用下さいませ。◆



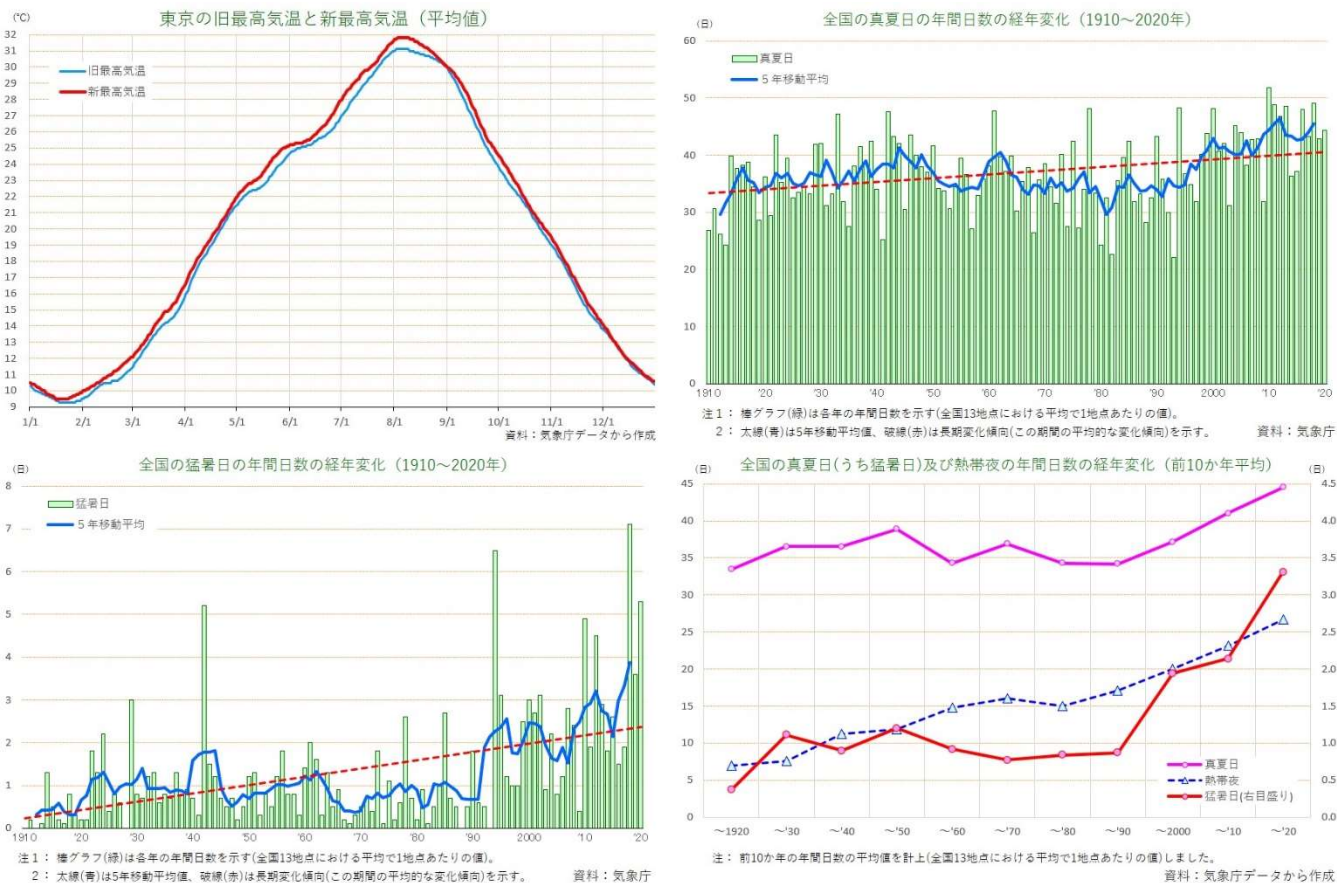
◆図表1 月別クラスター発生件数

年	発生月	医療機関	福祉施設	児童福祉施設			学校・教育施設	職場	飲食店 (居酒屋・バー含む)	会食*	接待を伴う飲食店	スポーツ関連	その他	Total
				高齢者福祉施設	障害者福祉施設	児童福祉施設								
2020	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
	2	1	2	1	1	0	0	2	1	0	0	3	3	12
	3	13	7	4	2	1	0	5	2	1	2	1	5	36
	4	56	46	33	5	8	6	39	4	3	5	2	3	164
	5	14	3	3	0	0	1	0	0	0	0	0	1	19
	6	4	2	2	0	0	1	1	12	1	7	0	0	28
	7	16	23	13	1	9	15	22	22	7	39	4	12	160
	8	59	84	63	6	15	29	33	52	10	30	7	13	317
	9	23	33	21	6	6	9	23	13	9	19	6	12	147
	10	24	34	27	4	3	19	34	13	12	36	2	10	184
	11	89	152	117	19	16	72	78	26	15	53	5	13	503
	12	147	257	194	27	36	104	114	52	26	76	15	21	812
2021	1	185	419	352	30	37	88	105	39	47	48	12	18	961
	2	99	169	134	9	26	26	49	11	5	17	2	10	388
	3	68	127	92	7	28	44	78	30	21	28	12	19	427
	4	97	255	189	20	46	131	163	69	34	41	21	38	849
	5**	38	140	112	11	17	63	83	58	42	33	14	6	477
合 計		934	1,753	1,357	148	248	608	829	405	233	434	106	184	5,486

\* 飲食店と判断できない事例を含む \*\* 5月は5/16発生分まで

資料：2021.05.19第35回新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード(資料3-1 押谷先生提出資料)から(一部改編)

◆図表2 日ごとの最高気温平年値（東京）と全国の真夏日、猛暑日、熱帯夜の日数の推移



資料:2021.05.19気象庁「日ごとの平年値(東京)」、「大雨や猛暑日など(極端現象)の長期変化」から事務局で作成